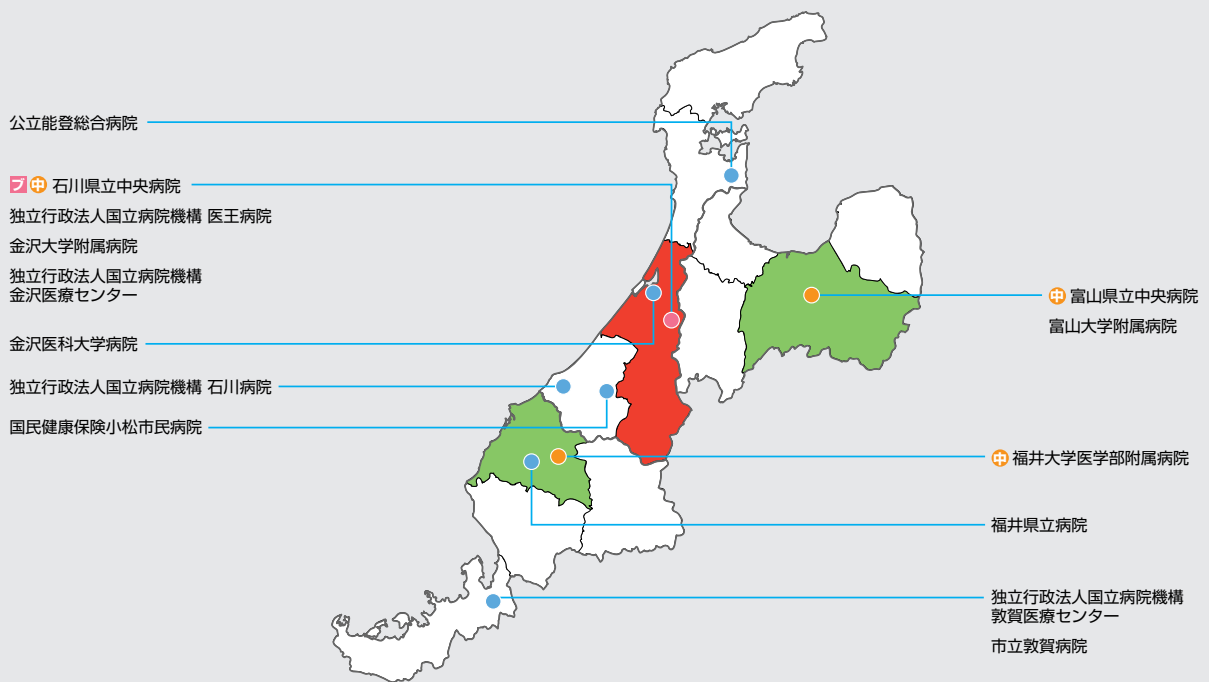


HIV診療の現況報告 北陸ブロック

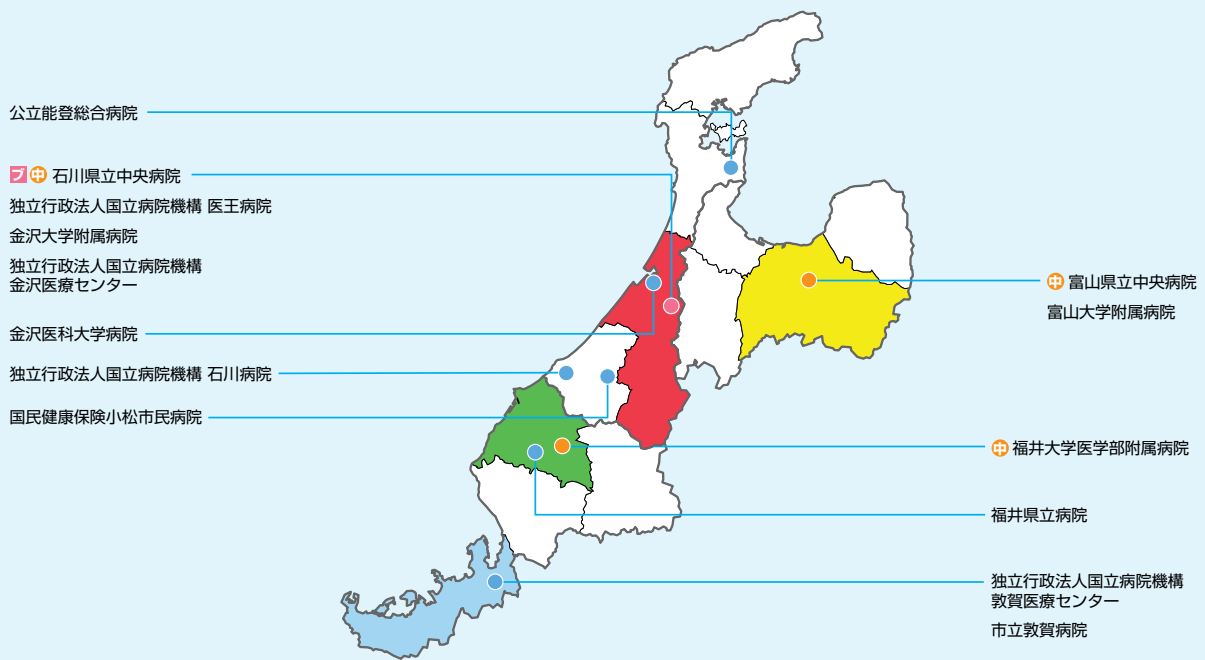
研究分担者 中谷 安宏（石川県立中央病院 免疫感染症科 診療部長）

2015年度



研究分担者 渡邊 珠代 (石川県立中央病院 免疫感染症科 診療部医長)

2016年度



人数 ○ 0 ● 1-5 ● 6-10 ● 11-25 ● 26-50 ● 51-75 ● 76-100 ● 100-250 ● 251-500 ● 501-1000 ● 1000-



北陸ブロックのHIV医療体制整備

研究分担者 渡邊 珠代

石川県立中央病院 免疫感染症科 診療部医長

研究結果

1. 拠点病院の診療状況

ブロックのHIV/AIDSの診療体制

【石川県】ブロック・中核拠点病院である石川県立中央病院に集中し、116名が定期通院中である。3拠点病院にそれぞれ2名、1名、2名が定期通院しているが、8拠点病院のうち、4病院では、定期通院患者はいない。

【富山県】中核拠点病院が34名、1つの拠点病院が21名、HIV診療協力病院(協力病院)にて1名の診療を行っている。

【福井県】中核拠点病院が28名、3つの拠点病院がそれぞれ16名、1名、1名、1つの協力病院が5名の診療を行っている。

2. HIV/AIDSの現状

北陸3県における平成27年1月から平成28年9月末までの新規HIV感染報告数は21名、累積患者数は280名で、現在227名の患者が北陸ブロックの病院で入院・通院治療を受けている。各県の定期受診者数の割合は、石川県120名(52.9%)、富山県56名(24.7%)、福井県51名(22.5%)でそれぞれ主に県内の患者の診療を行っている。223名(98.2%)の患者は県庁所在地内の拠点または協力病院に通院しており、今後の患者の高齢化等に伴い、県庁所在地以外(特に患者居住地周辺)での診療体制の整備も必要と考えられる。

3. 血友病薬害被害者の現状

ブロック内では、計14名(石川県7名、富山県6名、福井県1名)の診療を行っている。石川県ではブロック・中核拠点病院、富山県では拠点病院と協力病院、福井県では協力病院にて診療を行っている。全員抗HIV療法にてコントロール良好であるが、2名がHCV感染症の治療が未導入の状態である。

4. ブロック内拠点病院、地域の医療・福祉施設および行政との連携の現状と課題

エイズ拠点病院等連絡会議、およびカウンセリング・ソーシャルワーク連絡会をそれぞれ年1回行い、各都道府県の行政、中核拠点病院より現状と課題の報告や、情報交換を行っている。

長期療養に関する課題に関しては、HIV感染者・エイズ患者の在宅医療・介護の環境整備事業として、在宅医療・介護の従事者を対象とした1週間の研修を行っている。

5. 診療の中核となる医療機関における診療体制継続のための人材育成と維持について

北陸ブロック内の14拠点病院のうち、チーム医療加算を算定しているのは、ブロック拠点病院の1病院のみである。ブロック以外の拠点病院では、定期通院患者数が多い病院でも30名程度であり、病院側にとってもチーム医療加算の算定要件を満たすメリットが少ない。医師や看護師等の医療スタッフも、HIV専従での勤務は難しく、他の診療領域を専門とする医療スタッフが、業務の一つとしてHIV診療を行っているのが現状である。ブロック内の拠点病院・協力病院を対象とした診療の問題点・課題について行ったアンケートでは、経験不足、院内での相談相手がない、プライバシー確保の問題、担当診療科が未定、等の回答が得られた。当ブロックでは、これらの問題を少しでも解決すべく、ブロック内の医療従事者を対象とした症例検討会、および北陸HIV臨床談話会を開催し、意見交換や情報提供を行っている。今後も活動の継続、顔の見える関係作り、さらなる内容の充実を行い、ブロック内の人材育成と維持に貢献して参りたい。

考察

北陸ブロックにおいては、他のブロックと同様に、3つの中核拠点病院が機能し、各県内の患者を中心に診療を行っている。北陸3県の中核拠点病院はそれぞれの県庁所在地にあり、遠方の患者に対しては、それ以外の拠点病院やHIV診療協力病院が診療を行っている。今後、患者の高齢化に伴い、ブロックや中核拠点病院への通院が困難となる症例の出現も予想され、より多くの拠点病院やHIV診療協力病院での診療が望まれる。

北陸ブロック内の1施設当たりの患者数は少なく、多くの診療医師は、自身の専門領域の業務を行う一方で、HIV診療を行っているのが現状である。多忙な日常業務への負担を軽減しつつ、望ましい医療を提供していただけるよう、ブロック内での症例検討会や情報提供、相談支援などを通じて、診療支援を行うことがブロック拠点の役割と考えられる。

結論

各県の中核拠点病院を中心とした診療は可能となっているが、定期通院患者の受け入れが困難な拠点病院等も存在する。今後予想される患者の高齢化に向けて、より多くの医療機関で受け入れが可能となるよう、様々な活動を通じ、医療者へのサポート、人材育成と維持に努めて参りたい。

研究発表

1. 原著論文

- 1) Niwa T, Watanabe T, Goto T, Ohta H, Nakayama A, Suzuki K, Shinoda Y, Tsuchiya M, Yasuda K, Murakami N, Itoh Y. Daily Review of Antimicrobial Use Facilitates the Early Optimization of Antimicrobial Therapy and Improves Clinical Outcomes of Patients with Bloodstream Infections. *Biol Pharm Bull.* 39(5): 721-7, 2016.
- 2) Muraki Y, Yagi T, Tsuji Y, Nishimura N, Tanabe M, Niwa T, Watanabe T, Fujimoto S, Takayama K, Murakami N, Okuda M. Japanese antimicrobial consumption surveillance: First report on oral and parenteral antimicrobial consumption in Japan (2009-2013). *J Glob Antimicrob Resist.* 7:19-23, 2016.

2. 学会発表

- 1) 渡邊珠代、丹羽隆、鈴木景子、村上啓雄. 岐阜県感染防止対策加算の算定病院での血液培養の

実態についての検討. 日本感染症学会総会、2016年4月、仙台.

- 2) 鈴木景子、吉田省造、小林亮、鈴木昭夫、丹羽隆、中野通代、中野志保、加藤久晶、渡邊珠代、村上啓雄、小倉真治、伊藤善規. 高次救命治療センターにおける緑膿菌血流感染症に対する抗菌薬治療効果の検討. 日本化学療法学会総会、2016年6月、神戸.
- 3) 渡邊珠代、高山次代、浅田裕子、下川千賀子、安田明子、辻典子、齊藤千鶴、小谷岳春. HIV感染者での季節性インフルエンザ罹患率・重症化率についての検討. 日本エイズ学会総会、2016年11月、鹿児島.
- 4) 岡崎玲子、蜂谷敦子、瀧永博之、渡邊大、長島真美、貞升健志、近藤真規子、南留美、吉田繁、小島洋子、森治代、内田和江、椎野禎一郎、加藤真吾、豊島崇徳、佐々木悟、伊藤俊広、猪狩英俊、上田敦久、石ヶ坪良明、太田康男、山元泰之、福武勝幸、古賀道子、林田庸総、岡慎一、松田昌和、重見麗、濱野章子、横幕能行、渡邊珠代、田邊嘉也、藤井輝久、高田清式、山本政弘、松下修三、藤田次郎、健山正男、岩谷靖雅、吉村和久. 国内新規HIV/AIDS診断症例における薬剤耐性HIV-1の動向. 日本エイズ学会総会、2016年11月、鹿児島.
- 5) 高山次代、浅田裕子、齊藤千鶴、小谷岳春、渡邊珠代. 通院患者の老後の不安に関する調査. 日本エイズ学会総会、2016年11月、鹿児島.
- 6) 小谷岳春、齊藤千鶴、渡邊珠代. 当院におけるHIV感染症に合併した造血器腫瘍の4例. 日本エイズ学会総会、2016年11月、鹿児島.
- 7) 下川千賀子、安田明子、南川知央、高山次代、浅田裕子、辻典子、柏原宏暢、渡邊珠代. アドヒアランスに影響を与える因子について. 日本エイズ学会総会、2016年11月、鹿児島.
- 8) 安田明子、下川千賀子、林志保、南川知央、柏原宏暢、高山次代、浅田裕子、辻典子、小谷岳春、渡邊珠代. HIV/HCV重複感染者における抗HIV薬と経口抗HCV薬との相互作用について. 日本エイズ学会総会、2016年11月、鹿児島.
- 9) 宮浦朗子、宮田勝、山本裕佳、高木純一郎、渡邊珠代、高山次代、辻典子. 歯科衛生士専門学校におけるHIV感染症の知識調査. 日本エイズ学会総会、2016年11月、鹿児島.
- 10) 渡邊珠代、新川晶子、南啓介. 血液培養から大腸菌（ESBL産生菌を含む）が検出された患者背景に関する検討. 第28回日本臨床微生物学会総会、2017年1月、長崎.
- 11) 渡邊珠代、新川晶子、近藤祐子、松沢麻里、藤川真佐子. 大腸菌（ESBL産生菌を含む）菌血症への治療と予後に関する検討. 第32回日本環境感染学会総会・学術集会、2017年2月、神戸.

- 12) 藤川真佐子、近藤祐子、松沢麻里、新川晶子、
渡邊珠代. 看護師が関わる抗菌薬の適正使用に
向けたICTの介入の効果. 第32回日本環境感染
学会総会・学術集会、2017年2月、神戸.

知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし